

平成 25 年 5 月 27 日

幕別町議会議長 古川 稔 様

幕別町議会議員 小島 智恵



## 一般質問通告書

次のとおり通告します。

質問事項	質問の要旨
<p>1. ワクチン接種(風疹・子宮頸がん)とリスクについて</p>	<p>今、三日はしかとも呼ばれる「風疹」の患者数が急増している。風疹の予防接種は、1976 年から始まり、最初は女子中学生のみが対象でしたが、男女とも 1 歳過ぎに接種するようになったのは 1995 年からとお聞きする。その後、接種を受けていない空白の世代を対象に経過措置がとられましたが、その接種率は高くはないと言われている。風疹患者を性別・年齢別に見ると、免疫を持たない 20 代～40 代の男性が多く発症している（これは、予防接種を受けていない、又は 1 回しか接種していない世代と一致している）。この世代は、これから父親になる人も多く、妊娠中の女性に感染する恐れも大である。特に、妊娠初期の女性がかかると、胎児が先天性心疾患、白内障、難聴等の障害を持って生まれる可能性があり、その対応策が急がれるところである。</p> <p>一方、子宮頸がんワクチンの副作用にも注目が集まっている。全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会が厚生労働省に 4 月 8 日副作用（ギラン・バレー症候群、複合性局所疼痛、歩行障害等）の追跡調査や治療体制の整備などを求めて「嘆願書」を出したことがきっかけだった。なお、このワクチンは 2009 年に承認され、2010 年に公費負担の枠組みができ、今年 4 月から任意接種から定期接種に格上げされ、市町村には予防接種を実施し奨励する義務が、個人には接種を受ける努力義務が課せられた。今後、「接種に伴うリスクと接種しないリスク」等、保護者や本人の不安を払拭する取組みが求められている。以下、3 点について伺う。</p> <p>①両ワクチンの接種状況について。 ②免疫(風疹)のない世代の把握と、その接種について。 ③接種後の副作用などの訴えの有無と、不安払拭の取組みについて。</p>

(注) 質問の要旨は、具体的に記載すること。



質 問 事 項	質 問 の 要 旨
<p>2. 町内の待機児童について</p>	<p>近年、出産後も働き続ける(働き続けなくてはならない)女性の増加、保育所の不足などが主な原因となり、都市部及び3歳未満児において待機児童の問題が深刻化している。そうしたなか全国最多の待機児童を抱えていた横浜市が施策により、4月1日待機児童ゼロを達成したことから、改めて国及び各自治体の待機児童対策が問われている。</p> <p>本町においても札内地区の宅地造成が進み、子育て世帯、共働き世帯の増加・転入等が見られ、そうした方から「子供を保育所に預けたいが、空きがないと言われた。働くことが出来ない」と言った声が聞かれ始めている。以下、待機児童の実態や保育所の充足状況について伺う。</p> <p>①本町の待機児童数と、その対応について。  ②札内地区は、消費増税の駆け込み需要による住宅建設の急増も想定されるが、保育所運営に係る今後の見通しと施策について。</p>